

証券コード：6458（東証1部）

SINKO

新晃工業株式会社 会社説明会

2019年8月8日



目次

I. 会社概要	P. 2
II. 当社の特徴	P.10
III. 経営戦略	P.20
IV. 決算概要	P.30



I. 会社概要

1. 会社概要

会社名	新晃工業株式会社 SINKO INDUSTRIES, LTD.
本社	大阪市北区南森町一丁目4番5号
設立	1950年6月16日
事業内容	冷暖房、温湿度調整、換気装置、冷凍・冷蔵装置用機器の設計、製造、販売、仲介 冷暖房設備工事、空調機器設置工事の請負施工
代表者	代表取締役社長 武田 昇三
売上高	40,974百万円 (連結/2019年3月期)
営業利益	5,376百万円 (連結/2019年3月期)
親会社に帰属する 当期純利益	4,155百万円 (連結/2019年3月期)
資本金	5,822百万円 (連結/2019年3月期末)
従業員数	1,437名 (連結/2019年3月期末)
証券コード	6458 東証1部

2. 企業理念

経営理念	豊かな創造力と誇れる品質
ビジョン	顧客に「信頼と満足」を 社会に「信頼と満足」を 普遍的に提供する 社員に「信頼と満足」を
事業領域	快適環境の創造
戦略スタンス	空調機器のトップメーカー

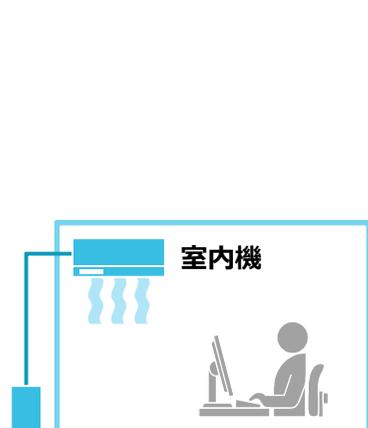
3. 事業内容

- 主に大規模建物に採用される「セントラル空調」の空調機器「AHU（エアハンドリングユニット）」 / 「FCU（ファンコイルユニット）」の開発・設計・製造・販売・アフターサービス（メンテナンス）

空調システムのカテゴリ

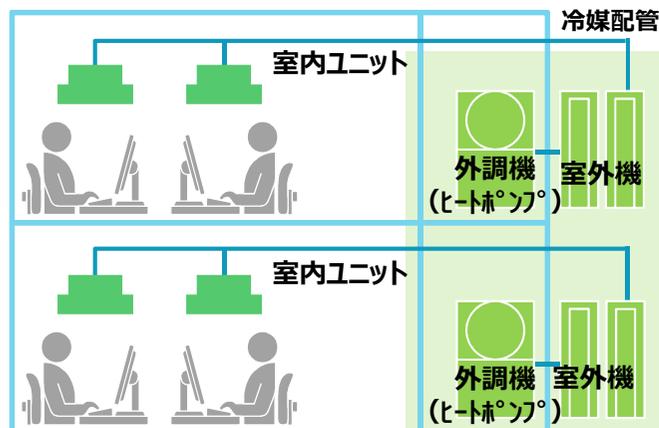
家庭用

- 部屋毎にエアコンを設置
- 冷媒ガスを介して空調



個別空調（個別熱源）

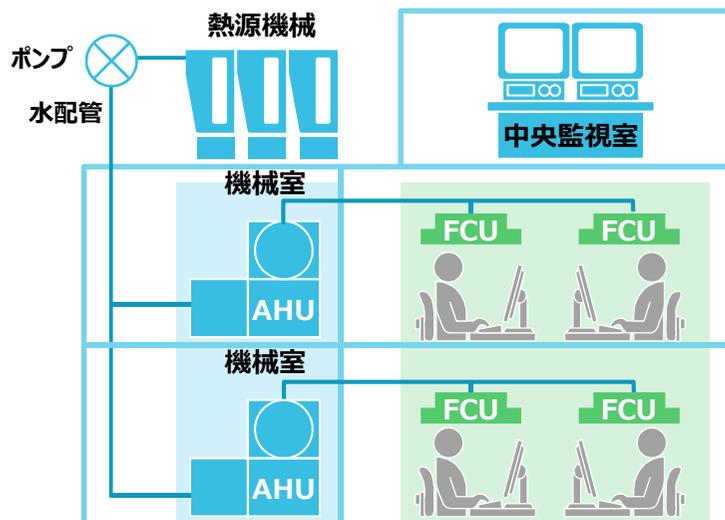
- 部屋・フロア毎に室外機・室内機を設置
- 冷媒ガス（フロンガス）を介して空調



業務用

セントラル空調（中央熱源）

- 建物毎に熱源機器、空調機器（AHU/FCU）を設置
- 冷温水（水）を介して空調



新晃工業の事業領域

SINKO



ヒートポンプAHU



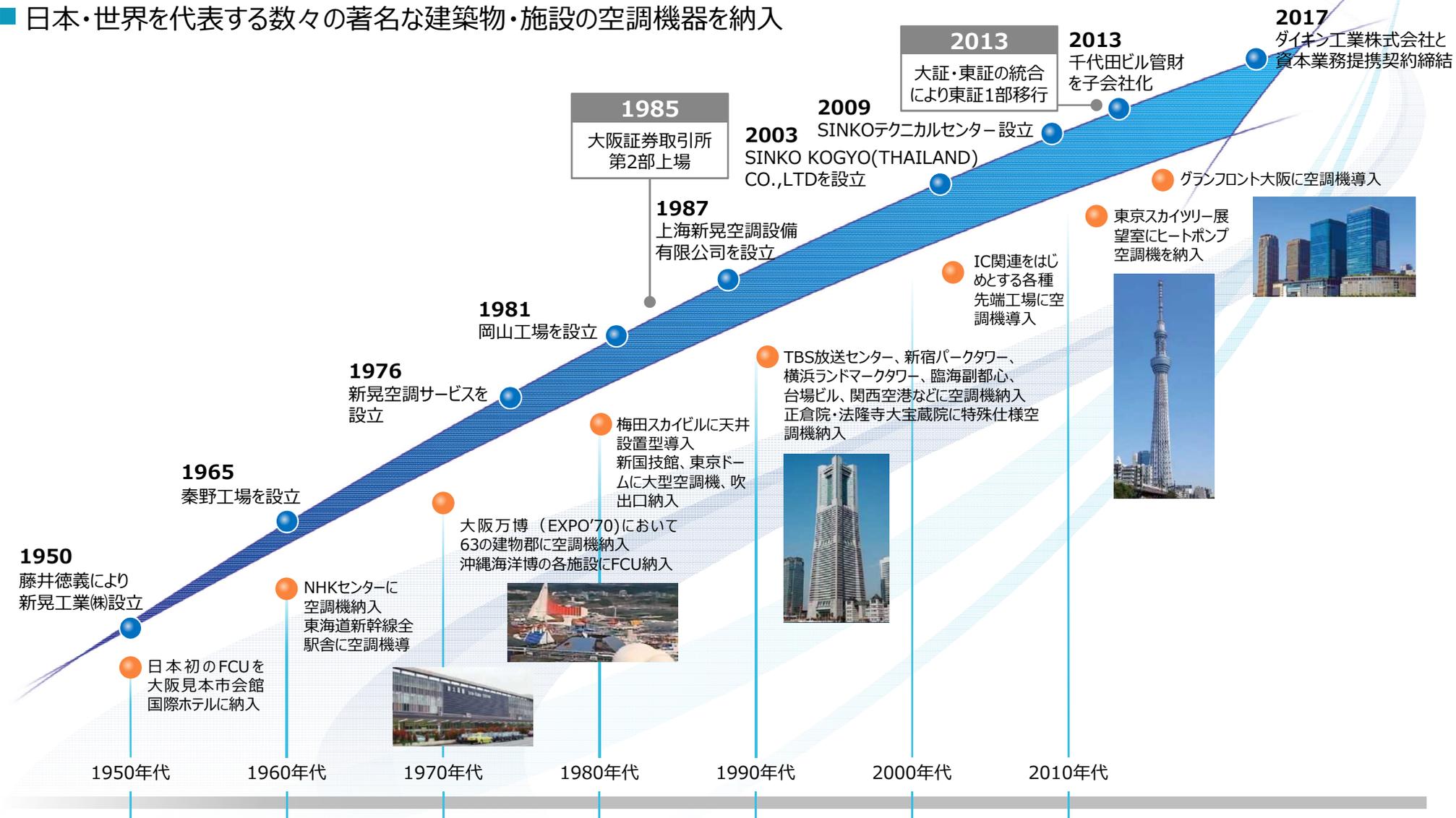
AHU
(エアハンドリングユニット)



FCU
(ファンコイルユニット)

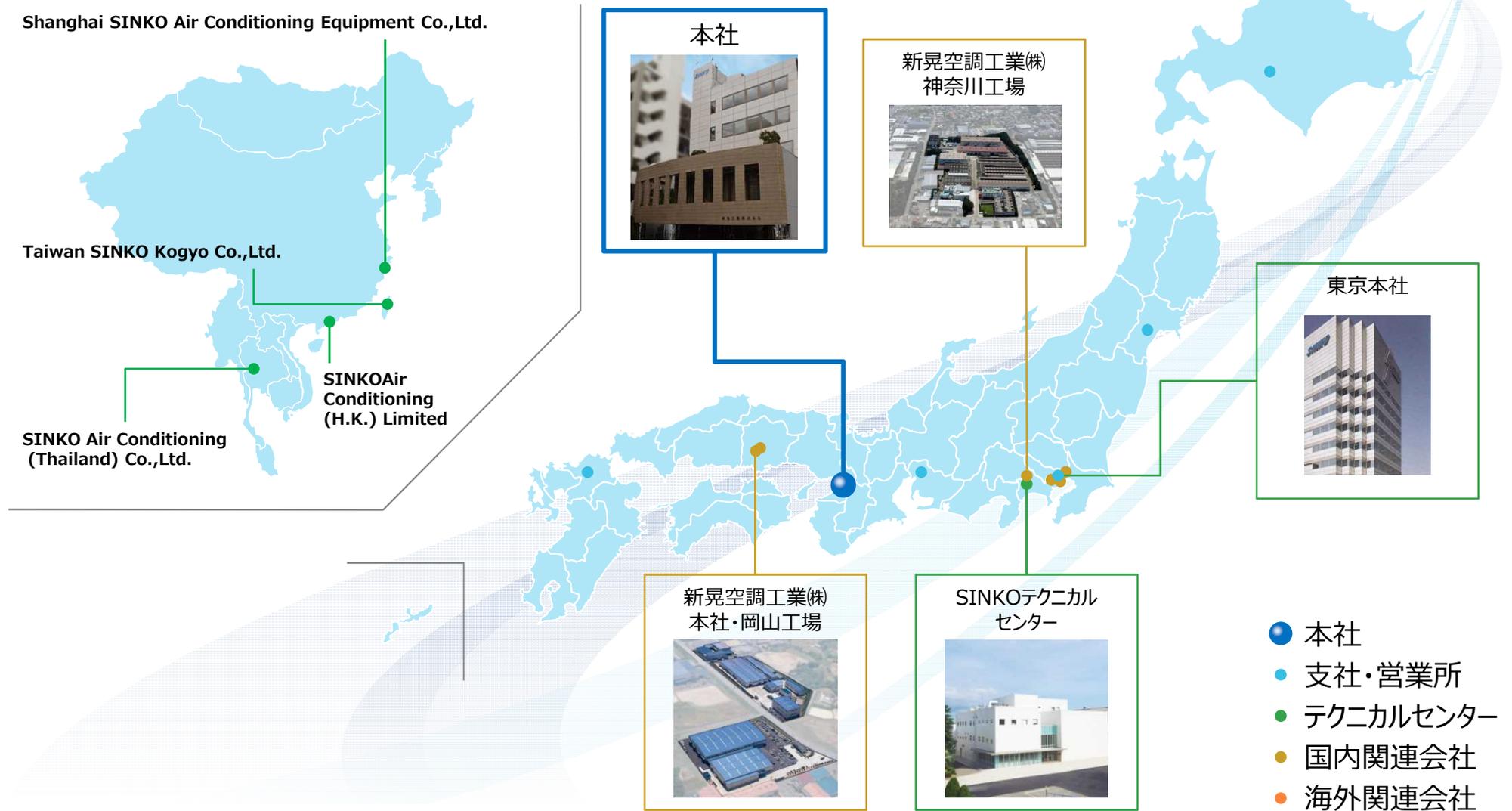
4. 沿革

- 1950年の創業以来、セントラル空調機器のリーディングカンパニーとして発展
- 日本・世界を代表する数々の著名な建築物・施設の空調機器を納入



5. 国内・海外拠点網

- 国内6拠点（本社・支社3拠点、営業所3拠点）、テクニカルセンター1拠点、関係会社6社
- 海外現地法人4社



6. 新晃工業グループ概要

新晃工業グループ

新晃工業株式会社
空調機器の開発・設計・販売等

SINKO

国内

国内空調機器等製造

新晃空調工業(株)

国内空調機器関連製品等販売

日本ビー・イー・シー(株)

国内メンテナンス

新晃アトモス(株)

新晃空調サービス(株)

ビル管理・メンテナンス

千代田ビル管財(株)

海外

海外空調機器等製造販売子会社

上海新晃空調設備股份有限公司

海外空調機器等製造販売関連会社

SINKO Air Conditioning
(H.K.) Limited

Taiwan SINKO Kogyo Co.,Ltd.

SINKO Air Conditioning
(Thailand) Co.,Ltd.

7. 事業構成

■ 国内を中心として中国、台湾、タイの生産・販売拠点で展開。海外は中国が最大市場であり、その後は代理店を中心に展開

売上構成 (連結 : 2019年3月期 409億円)

空調機器製造・販売事業

■ AHU



■ FCU



■ ヒートポンプAHU

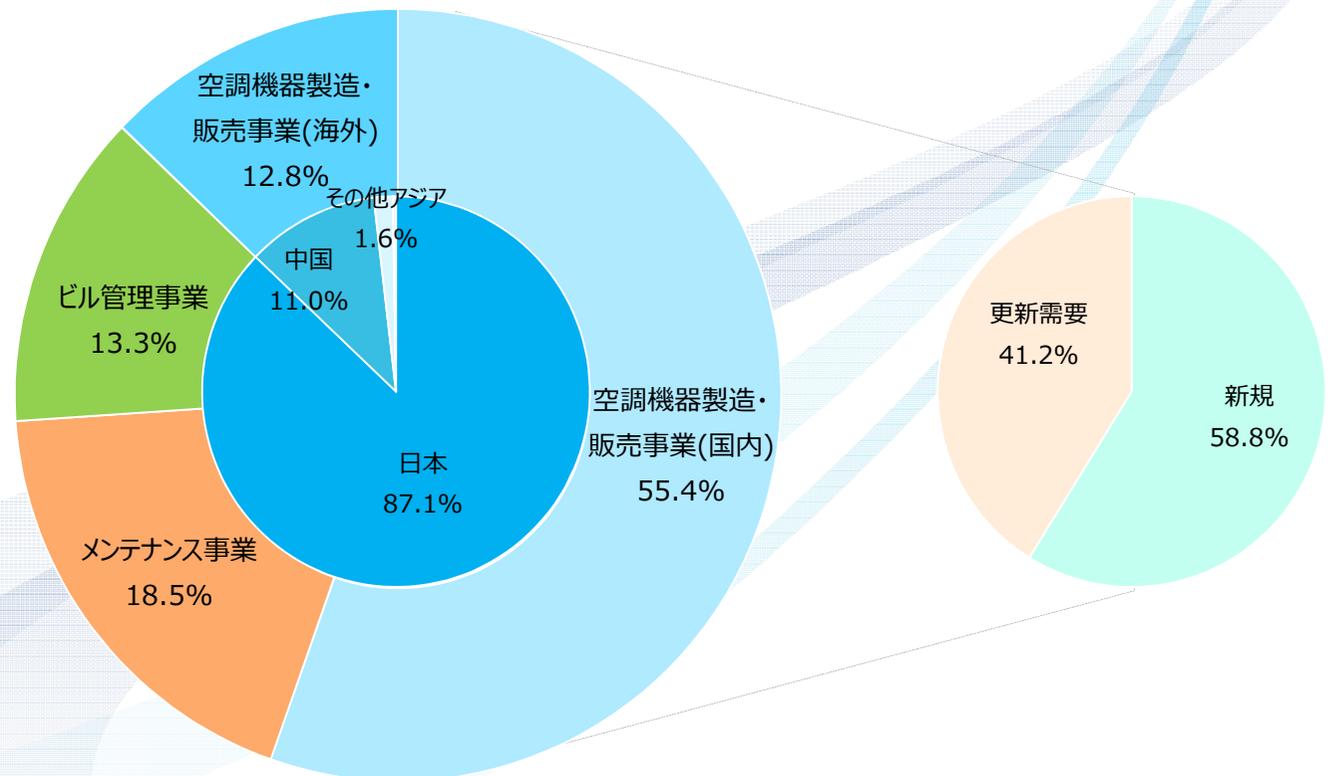


■ 氷蓄熱装置



■ メンテナンス事業

■ ビル管理事業



Ⅱ．当社の特徴

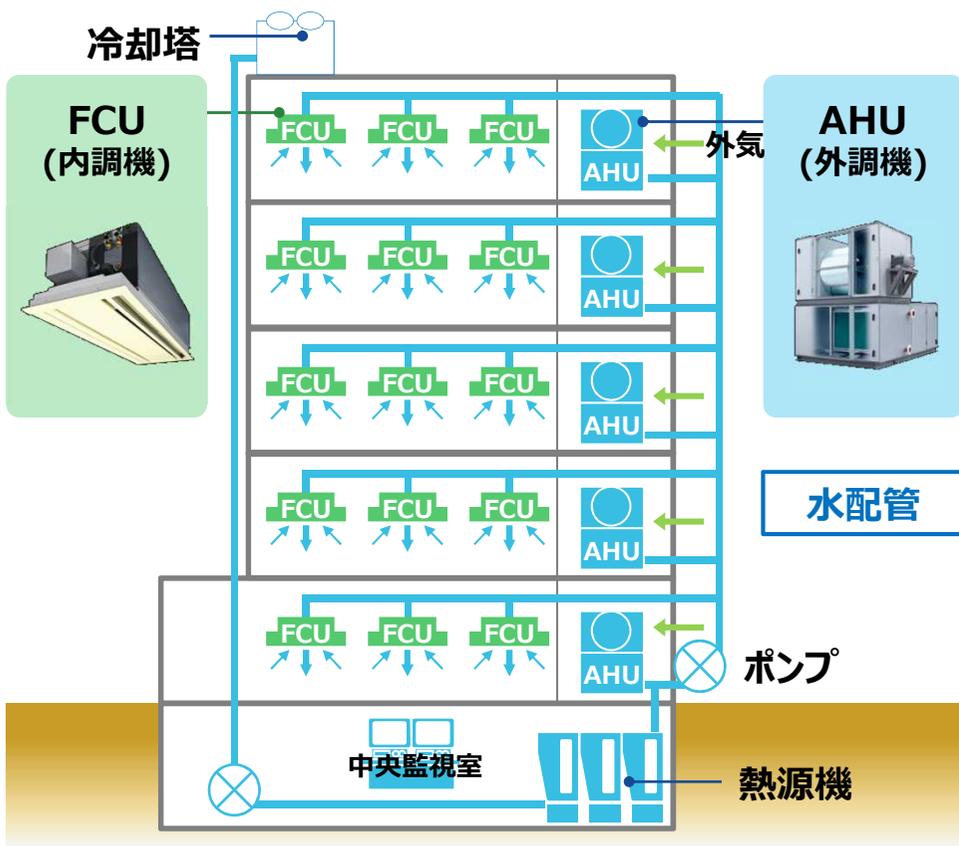


1. 主な事業領域

- 「セントラル空調（中央熱源）」方式で採用される二次側の空調機器が主力

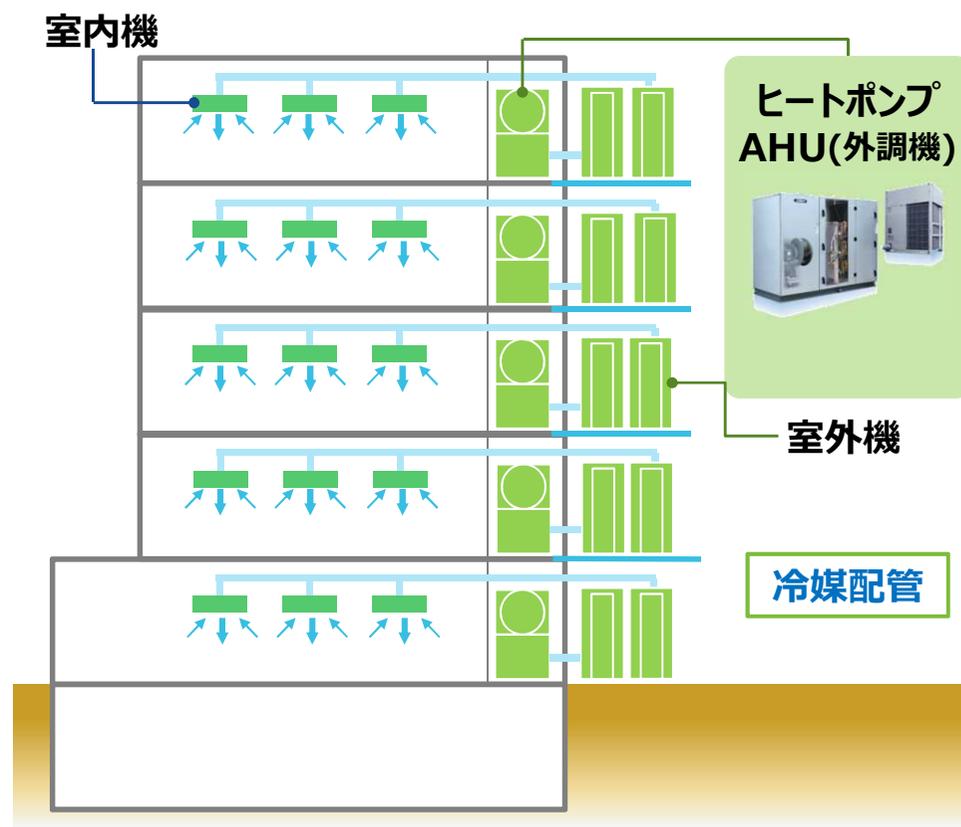
セントラル空調（中央熱源）

- 熱源機器（チラー、ボイラ等）を**1ヶ所に集中設置**
- 空調機器（AHU・FCU）に熱源で作る**冷温水（水）**を循環して空調
- 正しく設計・運用すれば**エネルギー効率に優れ、環境にも優しい**
(AHUなど建物毎の**一品一様の設計品**で最適なシステムを構築)
- **大規模の建物**（延床20,000㎡以上）で採用

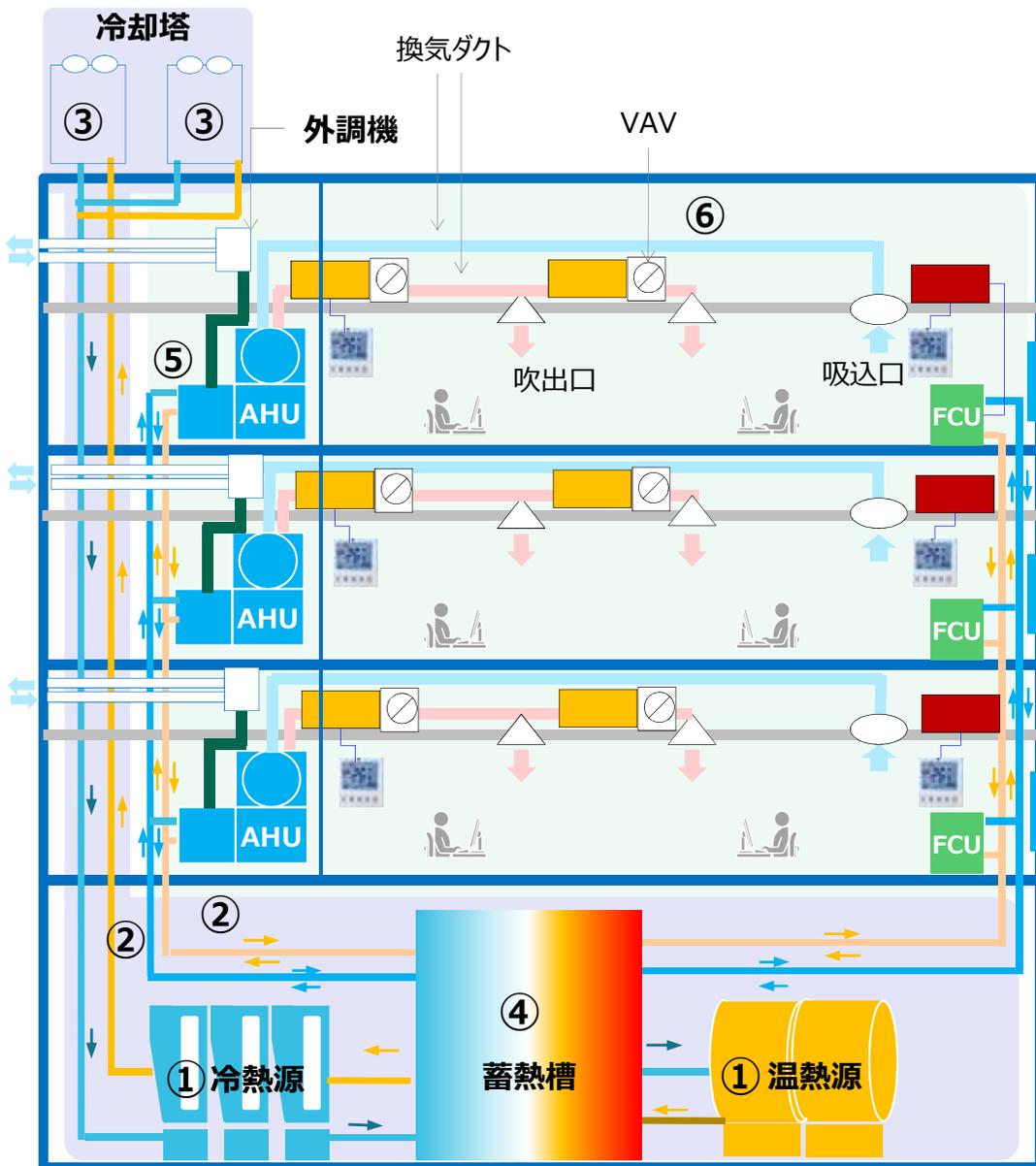


個別空調（個別熱源）

- 空調機器（室外機・室内機セット）を**部屋毎に設置**
- 空調機器（ビル用マルチエアコン等）に**冷媒ガス（フロンガス）**を循環して空調
- フロンガスを使うが、設計・施工が容易で、**機械室を小さくできる**
(ビル用マルチエアコンなど**汎用品**でシステムを構築)
- 主に**中小規模の建物**（延床20,000㎡以下）で採用



2. セントラル空調の仕組みとメリット



セントラル空調の仕組み

一次側：熱を造る（※）

- ① 集中設置された熱源機器で冷熱/温熱を生成
- ② 水を媒体にした冷熱/温熱は、ポンプで搬送され、空調に使用
- ③ 冷熱生成時に発生した排熱は、冷却塔から外気に放出
- ④ 蓄熱槽に熱を蓄え、熱の生成と消費の時間をずらすこともある

二次側：熱を使う

- ⑤ 配管を通して運ばれた冷水/温水が空調機器に供給
- ⑥ 空調機器はファンで風を発生させ、室内を空調

（※）主な熱源機器

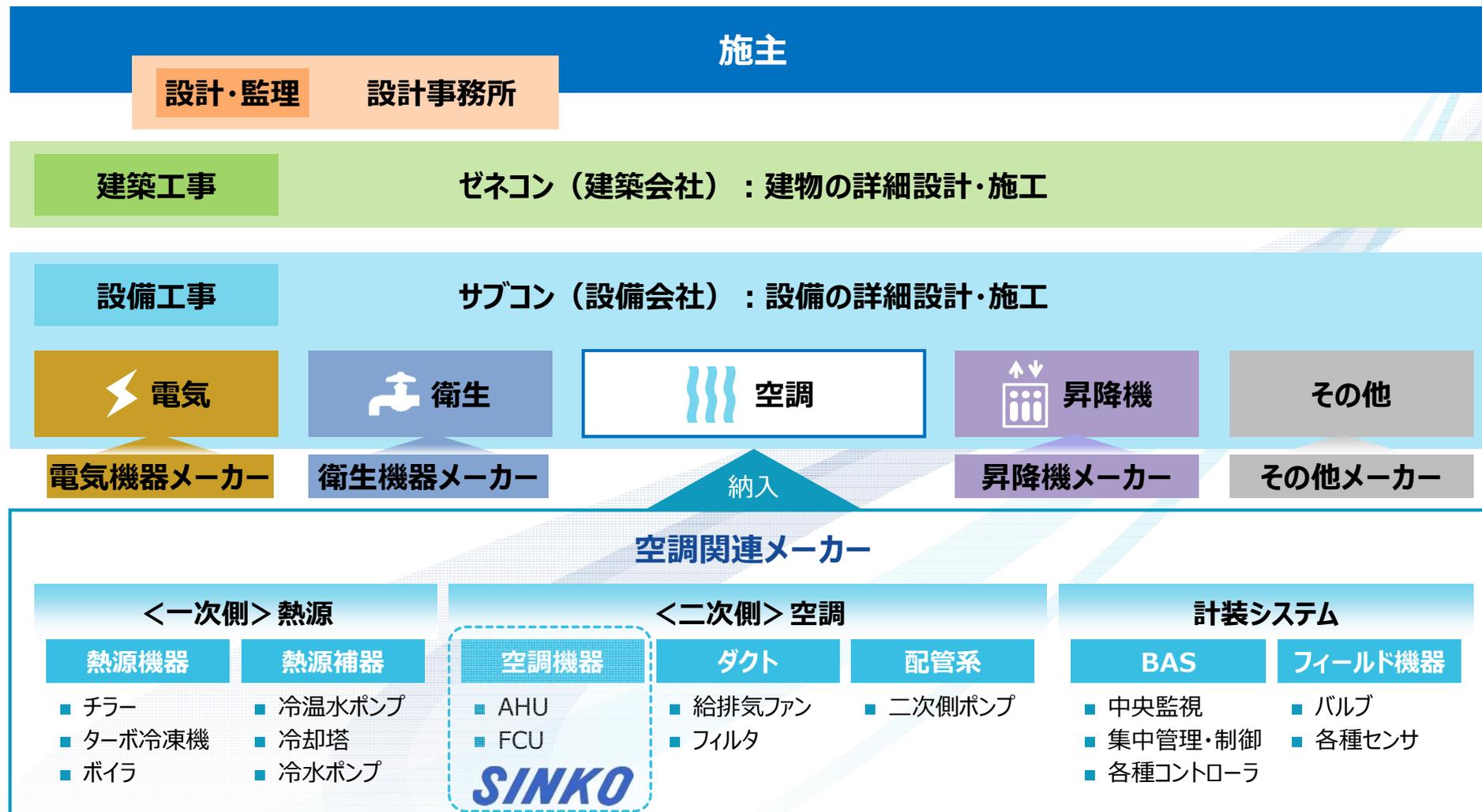
	病院・ホテル等	大規模建物	大規模エリア	中小規模建物
温熱源	ボイラ (油、ガス)	ボイラ (油、ガス)	地域冷暖房	ヒートポンプチラー (電気)
冷熱源	吸収式冷凍機 (油、ガス)	ターボ冷凍機 (電気)		
	+ 冷却塔	+ 蓄熱槽 + 冷却塔		

セントラル空調のメリット

- ✓ 熱搬送に「水」を使用、環境にやさしい（フロンガス未使用）
- ✓ グローバルでは主流の空調方式
- ✓ 高い空調レベルを要求される用途や外気処理で数多くの採用
(冷媒にはできない精密な温度・湿度制御が可能)
- ✓ 熱源をまとめて大型化するため、高効率の運転が可能
- ✓ 設置自由度、設計自由度が高い
- ✓ 機器がまとめて設置されているため、メンテナンス性がよい

3. セントラル空調（国内）の事業構造

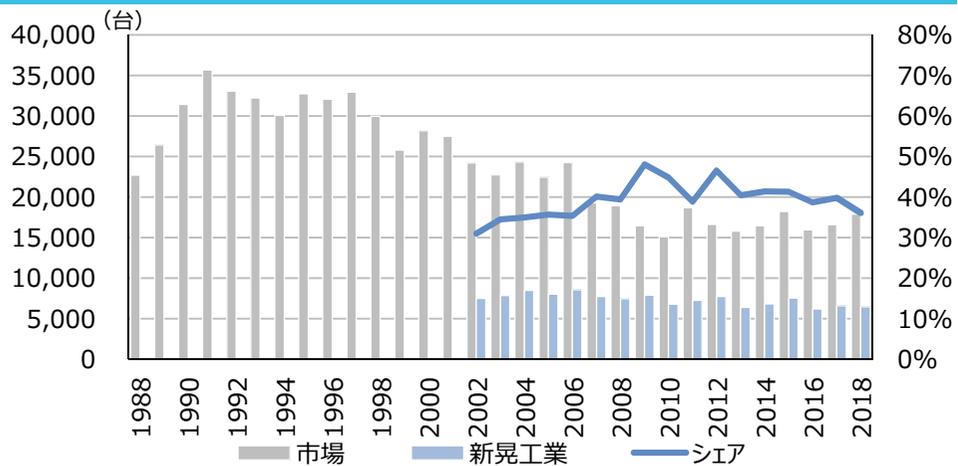
- 「施主」、設計・監理の専門家「設計事務所」、建物全体工事を束ねる「ゼネコン」、設備工事を請ける「サブコン」がプレーヤー
- 空調設備は「熱源」「空調」と全体を監視・制御する「計装システム」で構成される



4. AHUで国内トップシェア

- セントラル空調で採用される大型空調機器「AHU」市場では長年国内シェア40%程度でトップ
- ヒートポンプAHU市場でも国内2番手のシェア

国内AHU市場で一貫してトップシェア



新晃工業の強み

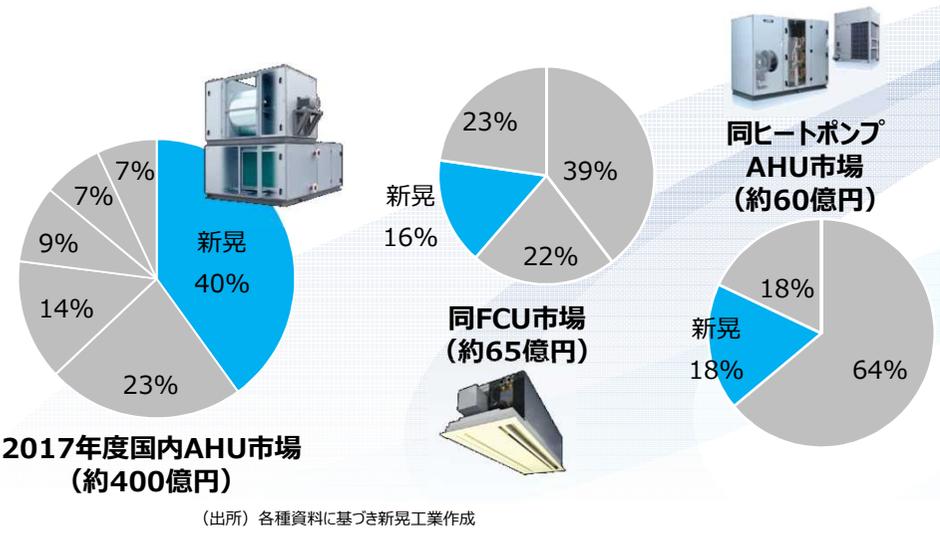
顧客に対する強み

- 開発力、設計力 設計変更への対応力** (No.1)
- AHU生産カトップ** (No.1)
- 品質トップ アフターサービス対応** (No.1)

事業運営上の強み

- 案件情報量**
- 業務システム**
- 現場調整・生産物流計画**

設計～生産～アフターサービスを含めた柔軟な対応力



5. 施設の特・用途に応じた高機能空調を提供

- 最先端の技術を取り入れ、省エネ、省スペース、省メンテナンス、高効率化を追求した空調を提供

ビル用空調



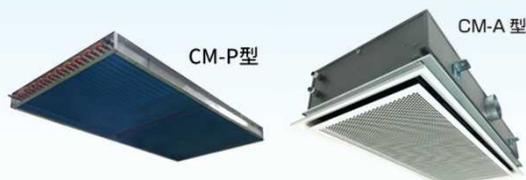
コンパクト空調機AJ-DD型

- 新しい時代の空調性能をコンパクトなボディーに集約
- 高効率なプラグファンを採用したベルトレスの直動運転型コンパクト空調機



コンパクト型デシカント空調機AJ-SD型

- 体感温度と深く関係する室内湿度を温度とは別にコントロール可能



チルドビームCM-P型 CM-A型

- ファンがなく、ドラフトや騒音を低減、体への負担を軽減する空調機

産業用空調



エアワッシャ組込空調機

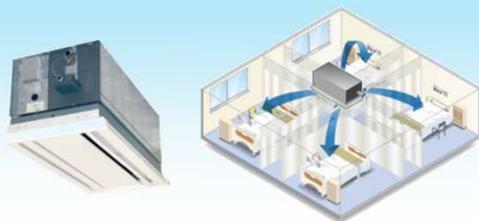
- 半導体や液晶工場などクリーンルームでは、生産性を高めるために、「清浄度」「ガス状汚染物質の除去」「効率化&省エネ」が不可欠。施設・目的に応じ、スプレー式、滴下式のエアワッシャを装備



産業用低露点除湿空調機SDD型

- 低露点（低湿度）環境が要求される医療品製造工程や冷凍倉庫において、低温の温風で再生できる高分子収着剤を採用。ヒートポンプや工場排熱が利用でき、熱損失も抑制

医療施設用空調



4床用ファンコイルユニット

- 独自の誘引型吹出口形状を採用、ダクトレスで4床の個別風量制御を実現

データセンター用空調



リリーフェア AHU

- 2ファン2モータを搭載することにより、片方のファンモータが停止しても自動的にバックアップ運転が可能

6. 製販一貫体制とユーザーと直結した研究開発

- 研究開発から設計、製造、メンテナンスまで一貫した体制で対応することにより最適な空調空間の創出を実現
- 研究開発施設「SINKOテクニカルセンター」が2009年に完成。新技術創出・新製品開発力を飛躍的に向上

研究開発からメンテナンスまで一貫システムで対応



研究開発体制 SINKOテクニカルセンター

- AMCA規格に基づいた送風機性能試験装置をはじめ、これからの空調機器研究に必要な各種最新設備を導入
- 2017年からはダイキン工業株式会社との共同開発もスタート



SINKOテクニカルセンター概観



コンセプト

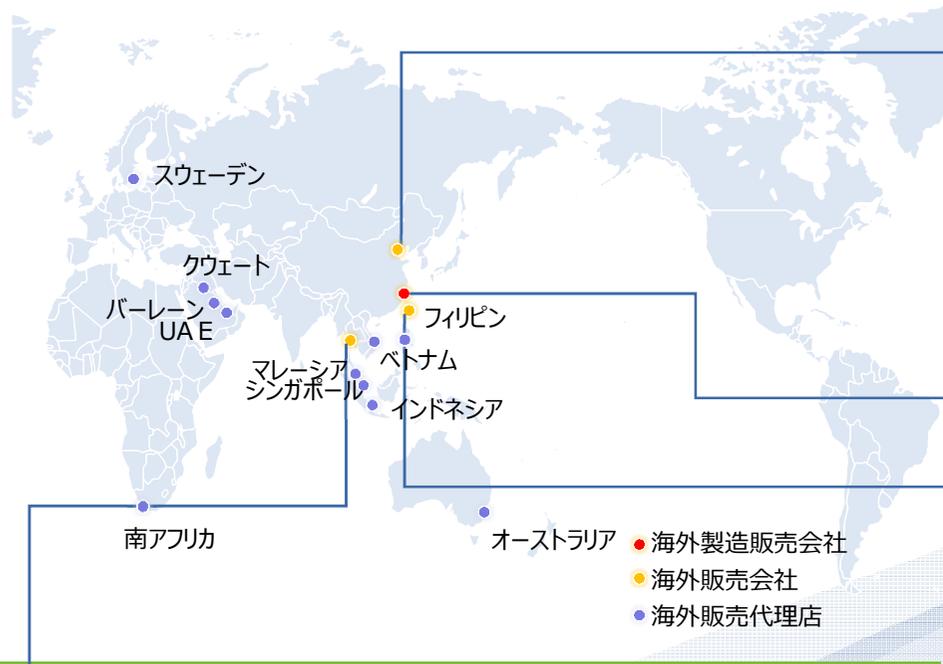


プレゼンテーションルーム

空調機実験エリア

7. 海外展開

- 1987年5月に上海に合併会社を設立以来、中国・台湾・タイに展開
- アジア拠点以外において、欧州、中東、アフリカ、その他のアジアに代理店で世界各国の需要に対応



中国

上海新晃空調設備股份有限公司

- 中国大陸における設計・生産・販売の拠点 (連結子会社)



SINKO Air Conditioning (H.K.) Limited

- 香港における販売拠点 (持分法会社)

タイ

SINKO Air Conditioning (Thailand) Co.,Ltd.

- タイにおける設計・生産・販売の拠点 (持分法会社)



台湾

Taiwan SINKO Kogyo Co.,Ltd.

- 台湾における設計・生産・販売の拠点 (持分法会社)



8. 国内・主要納入実績

■ 2020年にかけて、新国立競技場などオリンピック関連大型施設にも幅広く納入



大阪駅周辺・グランフロント大阪



あべのハルカス



梅田阪急百貨店



大阪ドーム



中部国際空港セントレア



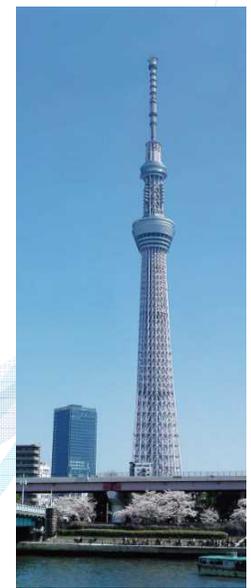
名古屋ドーム



六本木ヒルズ



丸の内ビル



東京スカイツリー



東京駅



東京ミッドタウン

9. 海外・主要納入実績



ラッフルズホテル (シンガポール)



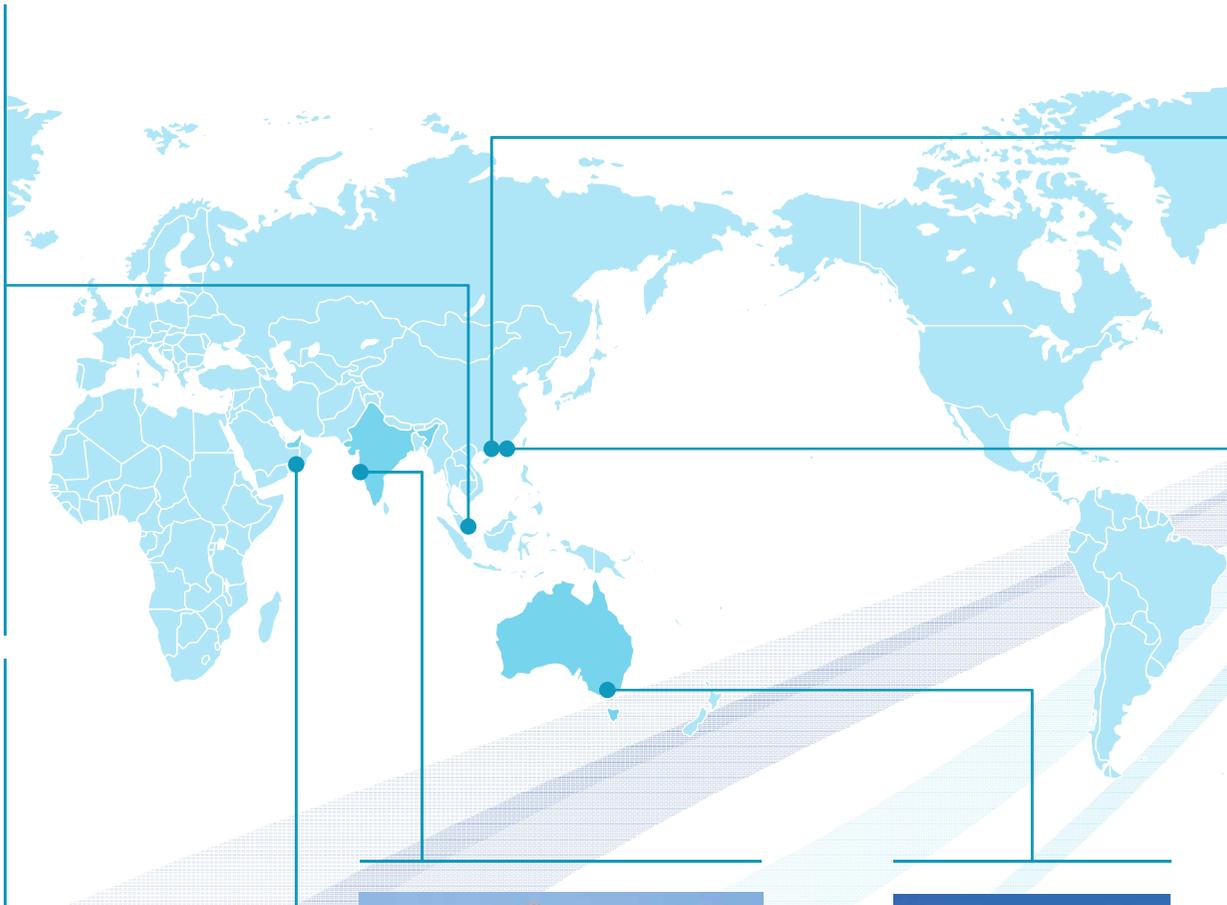
マリーナ ベイ サンズ
(シンガポール)



ドバイ市街地



マディナ ジュメイラ (ドバイ)



ザ・ベネチアン・マカオ (マカオ)



ペニンシュラホテル (ホンコン)

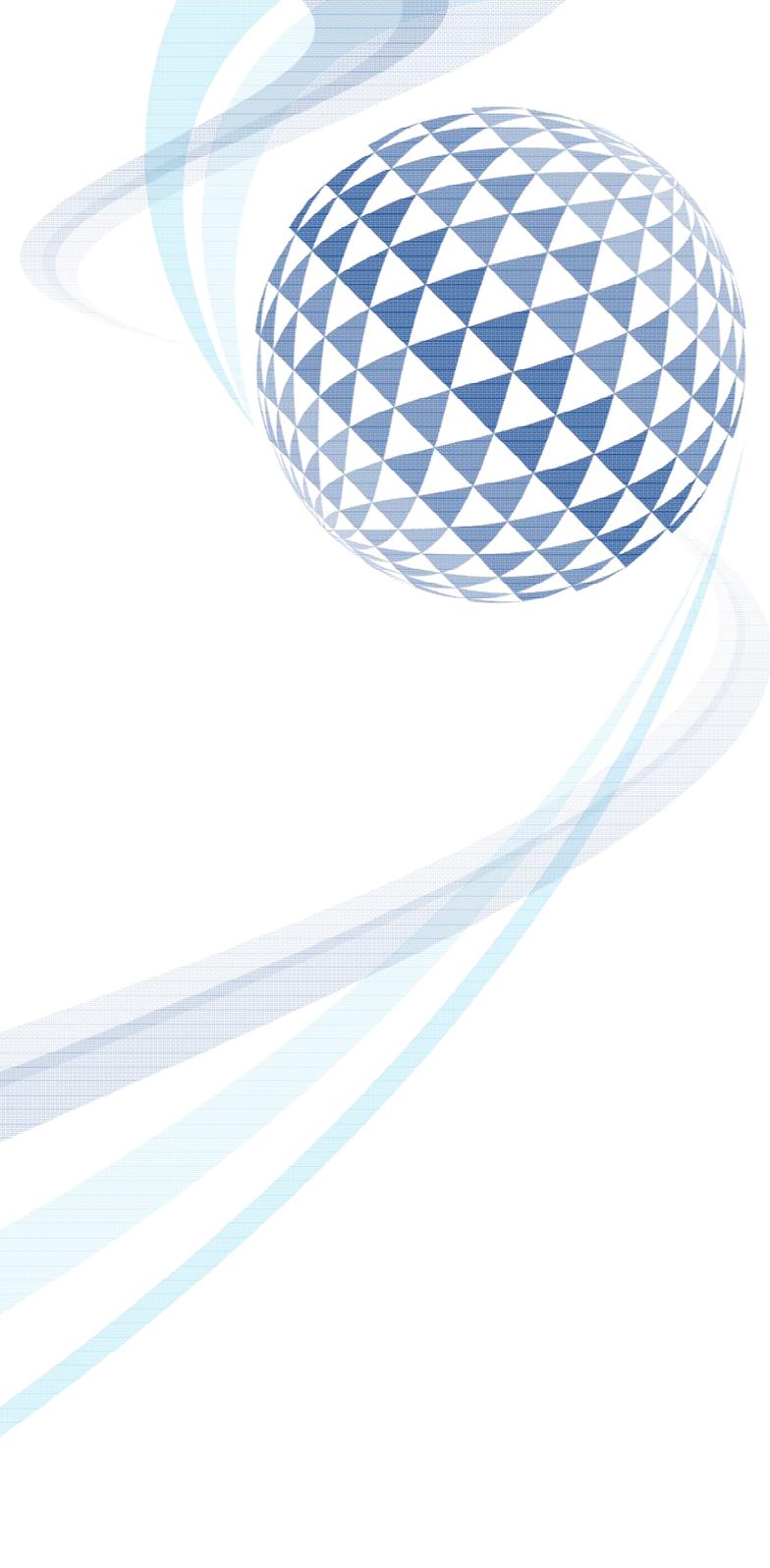


タージマハルホテル (ムンバイ)



クラウンカジノ (メルボルン)

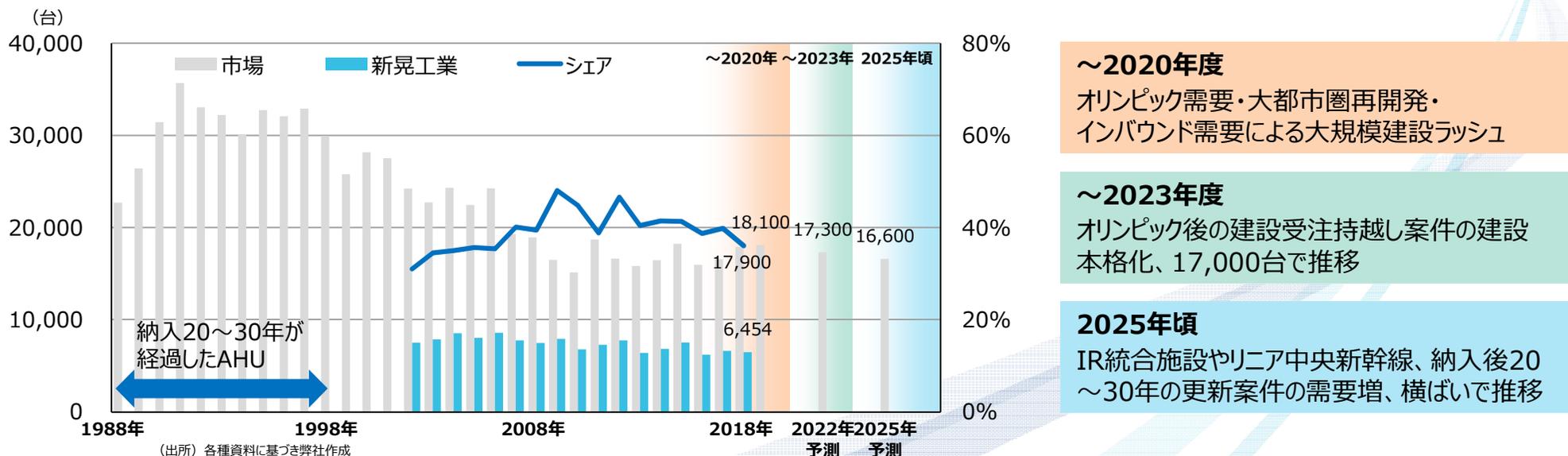
Ⅲ. 経営戦略



1. 事業環境

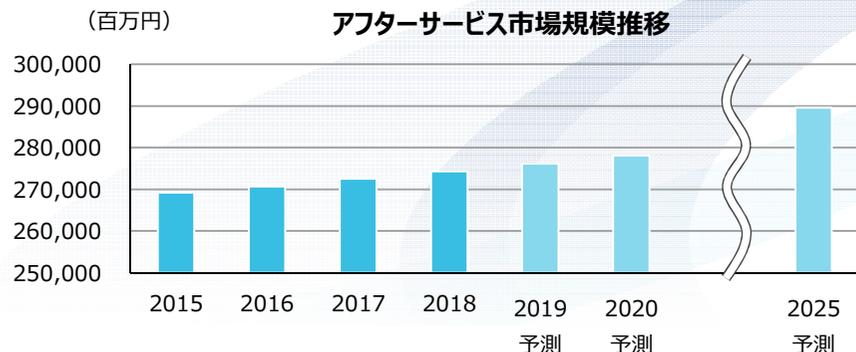
■ AHU国内市場は2025年以降もメンテナンス需要が堅調

AHU国内市場展望



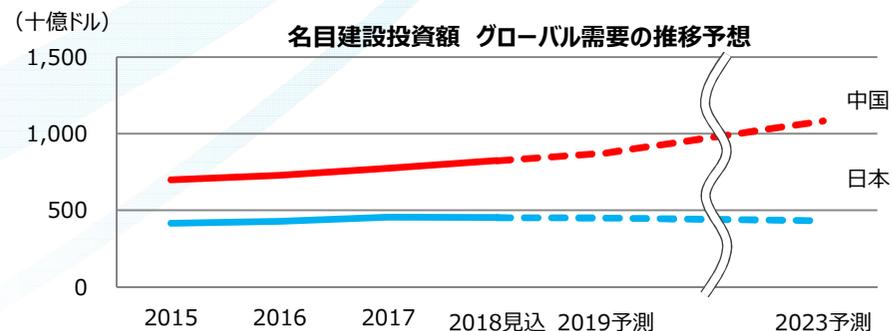
アフターサービス市場拡大

- 2025年頃に新築は減少するが、ストック増大によりアフターサービス市場は拡大



中国建設市場の成長

- 景気冷え込み懸念に対し、政府財政支出拡大策として、インフラ投資拡大を予想



2. 今後のターゲット市場

- 国内主要施設、大都市圏再開発において大型物件の受注獲得強化
- 2025年以降のストックビジネス化、セントラル空調の更新需要を見越しメンテナンス営業を強化

～2020年：再開発需取り込み

～2023年：持越案件需要、2025年～：ストックビジネス・新規都市開発



渋谷ストリーム



東京:(仮称)OH-1計画
(出所:三井物産株式会社・三井不動産株式会社)



名古屋：JRゲートタワー

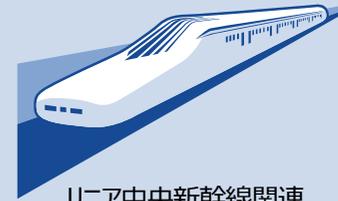


丸の内二重橋ビル

持越案件需要・新規都市開発



IR統合施設



リニア中央新幹線関連

既存大型建築物更新需要



霞が関ビル



ランドマークタワー



東京ドーム

アフターサービス・メンテナンス営業強化

- 新晃アトモスによるメンテナンス取り込み強化
 - 東京・大阪中心のメンテナンスから、地方に拡大
 - AHU事業から撤退したメーカー（家電大手等）の納入物件からの更新需要を見越した取り込み

3. 経営戦略

目指す姿

安定して高収益を計上するグループへ

生産性・品質向上

人手不足と需要増減への対応

生産効率の改善
生産平準化

造り方改革による
生産能力増強

技術深耕

インフラ技術・新技術開発

シミュレーション活用
による開発力向上

省エネ性10%UP
コスト10%DOWN

海外事業支援

アジア事業の抜本的な改善

意識改革 = 受注採算重視

生産性向上 = 製造原価削減

ダイキン工業株式会社 協業

ガス冷媒空調技術の活用
営業・開発・サービスにおける連携

ヒートポンプ空調機の共同開発

ヒートポンプチラーの拡販

人財育成

メンテナンス事業の拡大

製販一体の組織効率向上 = 新晃工業・新晃空調工業の合併検討中（2020年4月）

3. 経営戦略

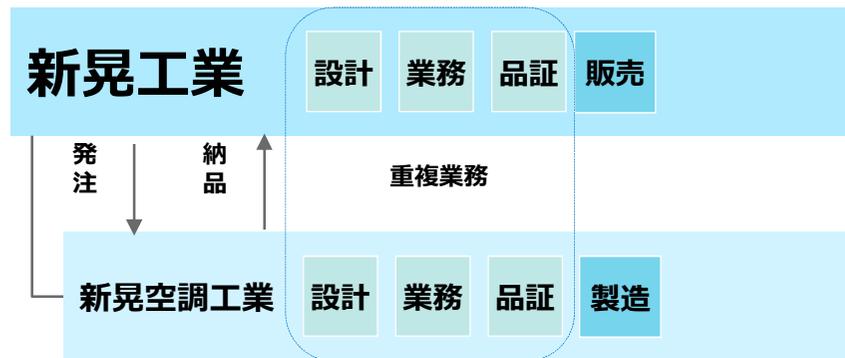
(1) 生産性・品質向上

- 製販一体の強化をめざし、新晃工業（開発・設計・販売）と新晃空調工業（設計・製造）の2020年4月の合併を検討中
- 人手不足・需要増減に対応できる生産性向上とクレームゼロへの取組み強化

製販一体体制の強化

- 組織内の重複業務の削減、部署・人員の最適配置などを通じて、組織効率の向上を目指す

現在



合併後



生産性・品質向上に向けた取組み

▶ 生産性向上



▶ 生産能力増強



▶ 生産最適化



▶ 品質向上



3. 経営戦略

(2) 技術深耕

- AHUの主要構成部品である熱交換コイル、ファンを新たに開発、高効率による省エネに寄与
- 医療福祉施設におけるウイルス・細菌対策として、清潔な空調環境を抗菌剤・UVランプを組み込んだ空調システムにより実現

省エネルギー部品/新ファン・新コイル

- コンパクト型空調機用熱交換コイル（WTS型）
（2019年8月発表）
 - 伝熱効率が高いコイル開発によるコイル列数やフィン枚数を削減し、原材料や加工工数を削減（2019年8月発表）



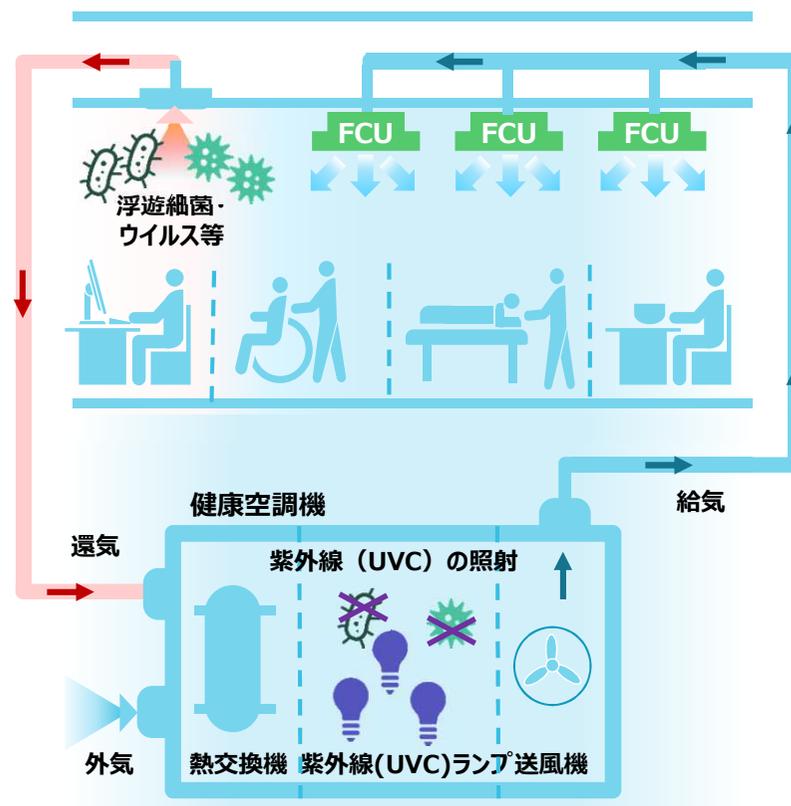
- コンパクト型空調機用プラグファン（PS型）
（2019年8月発表）
 - 流体シミュレーション(CFD)を活用し、送風機の各部材を最適設定
 - 三次元湾曲の単板翼採用とインレットコーン小型化により静圧効率74%（従来比15%UP）を実現（2019年8月発表）



医療福祉施設向け空調

- UVCランプ導入による健康空調®
 - 紫外線による細胞機能に作用して殺菌する薬剤と異なるメカニズムを利用、強力なUVCランプを空調機内に組み込む

健康空調を利用した空調システム



3. 経営戦略

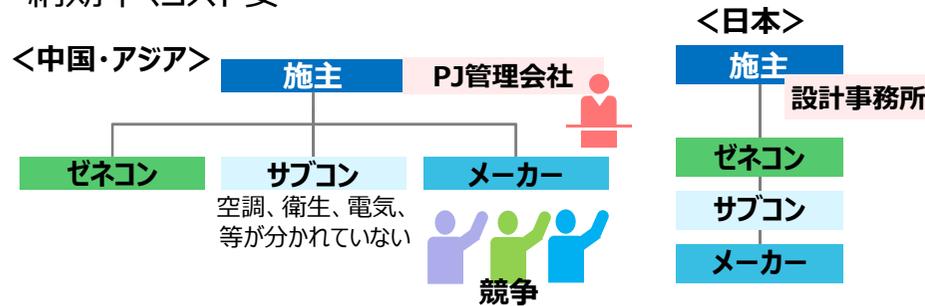
(3) 海外事業支援 ～中国・アジア事業再構築

- 日本と異なり「水平分業方式」が一般的なグローバル（主に中国）市場において、政策の変化に対応し上流（設計段階）から付加価値を生む高機能型AHUを売り込む施策を展開

中国・アジア市場の課題

中国・アジア市場の特徴（水平分業方式）

- 施主の意向反映、汎用の定型製品中心、差別化できず、納期早くコスト安



汎用機器における価格競争厳しく、汎用品の大量受注では利益の低下を招く傾向

中国政策変化への対応

社会主義現代化強国実現への新たな道のりと実現目標 第一段階（2020年-2035年）

- 経済や科学技術の実力の飛躍的向上
- 国家のガバナンス体系・能力の現代化の基本的実現
- ソフトパワーの顕著な強化
- 都市・農村間等の格差の顕著な縮小
- 現代的な社会統治の枠組みの基本的形成
- 美しい中国の基本的実現



製造強国

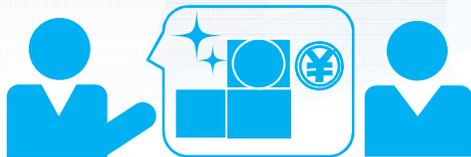
科学技術強国

品質強国

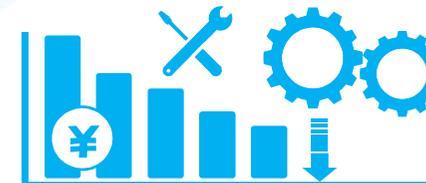
建設分野においても高品質・高い技術をもった製品の採用が進展

汎用型から高機能型のAHUに特化、設計段階から売り込むことにより、価格競争を回避し利益を確保する方針

意識改革 = 受注採算重視



生産性向上 = 製造原価削減



3. 経営戦略

(4) ダイキン工業株式会社 協業

- 2017年5月にダイキン工業株式会社（以下、ダイキン）と資本業務提携を締結し、
1) ヒートポンプ空調機の共同開発、2) ヒートポンプチラーの拡販 に関する協業を実施

ヒートポンプ空調機の共同開発

- 熱交換器をモジュール化、製品設置床面積を縮小し、省スペース化を実現
- ガス冷媒の容量制御による供給温度の精度向上

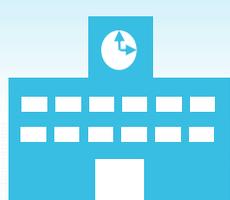


ヒートポンプ空調機「HP-AHU II」

今後の拡大が見込まれる市場



生産工場



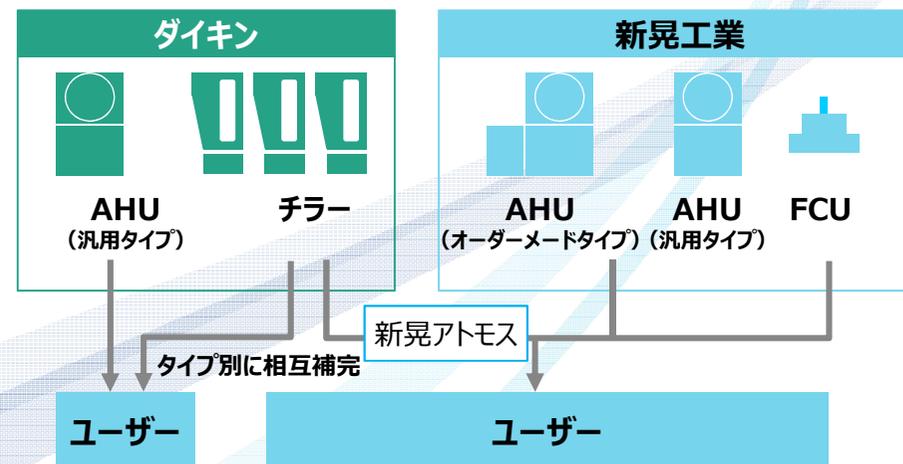
学校



中規模ビル

ヒートポンプチラーの拡販

- ダイキンの一次側熱源（ヒートポンプチラー）と新晃工業の二次側空調（AHU/FCU）の組み合わせ販売



- 新晃アトモスによるダイキン製空調機器のメンテナンス対応



メンテナンス



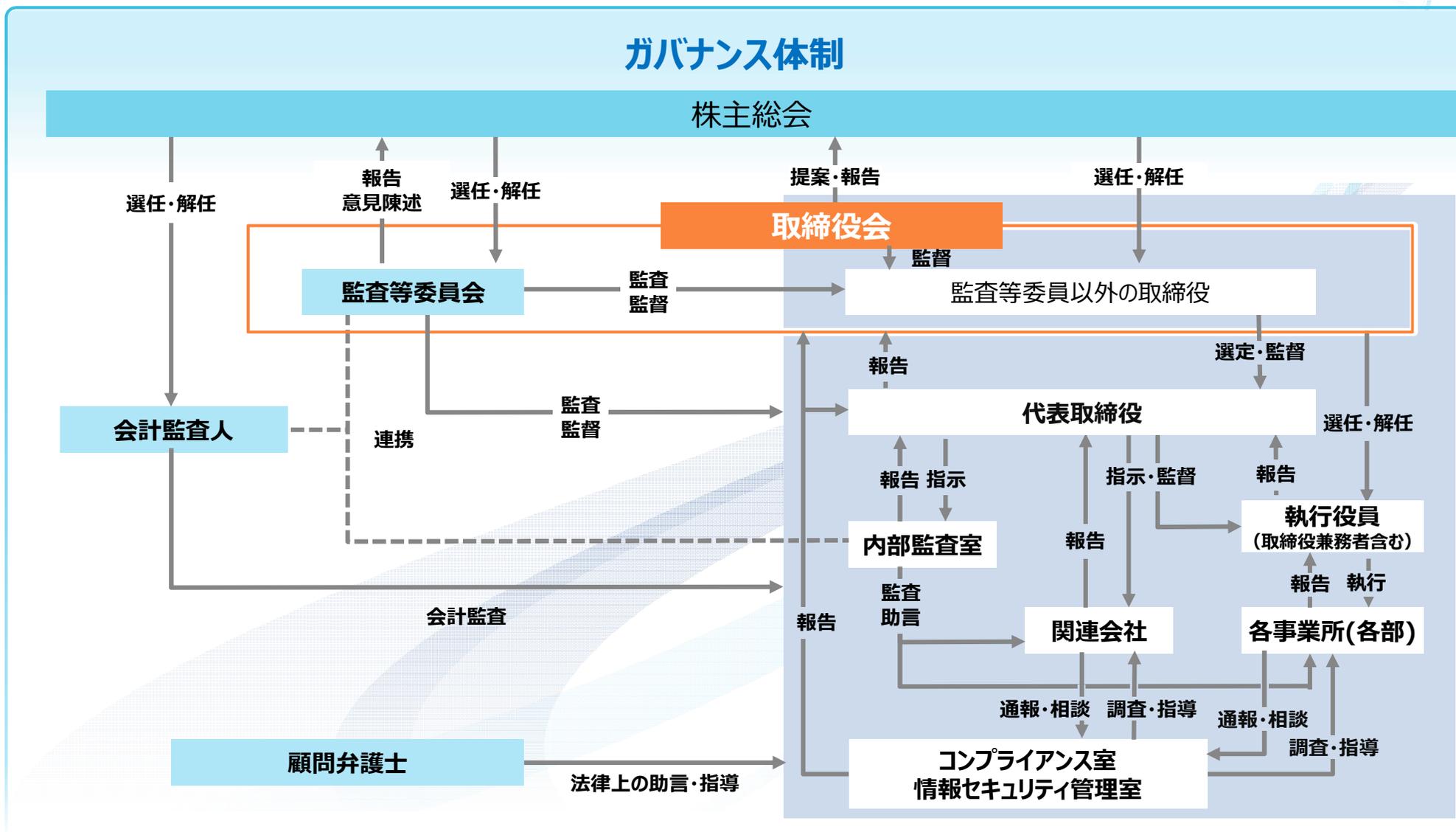
整備工事



劣化診断

4. コーポレート・ガバナンス

- 経営の透明性を確保、コーポレートガバナンス強化に向け必要な体制整備を推進
- 2016年6月に監査役等委員会設置会社に移行



5. 環境経営への取り組み

■ 地球環境・地域環境保全活動を事業経営の最重要課題として位置づけ、積極的に推進

ISOへの取り組み

環境性能と高品質を両立した製品づくりを実践



1998年：ISO9001取得
(品質保証の国際規格)



2006年：ISO14001取得
(環境マネジメントシステムの国際規格)

省エネ・環境対策を目指したものづくり



- コイルサイズを定型化する事により、生産性向上
- 現場配管を削減できるタイプをラインアップ、銅管 + 断熱材など現地使用材料を低減

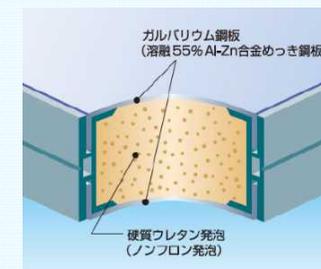
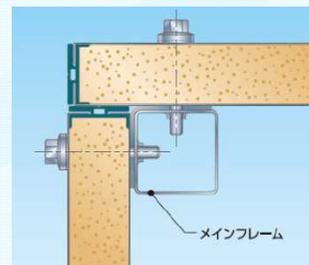


- 伝熱効率が高いコイル開発によるコイル列数やフィン枚数を削減、原材料や加工工数を削減

「設計-製造-使用-廃棄」のサイクルを見通した環境対策

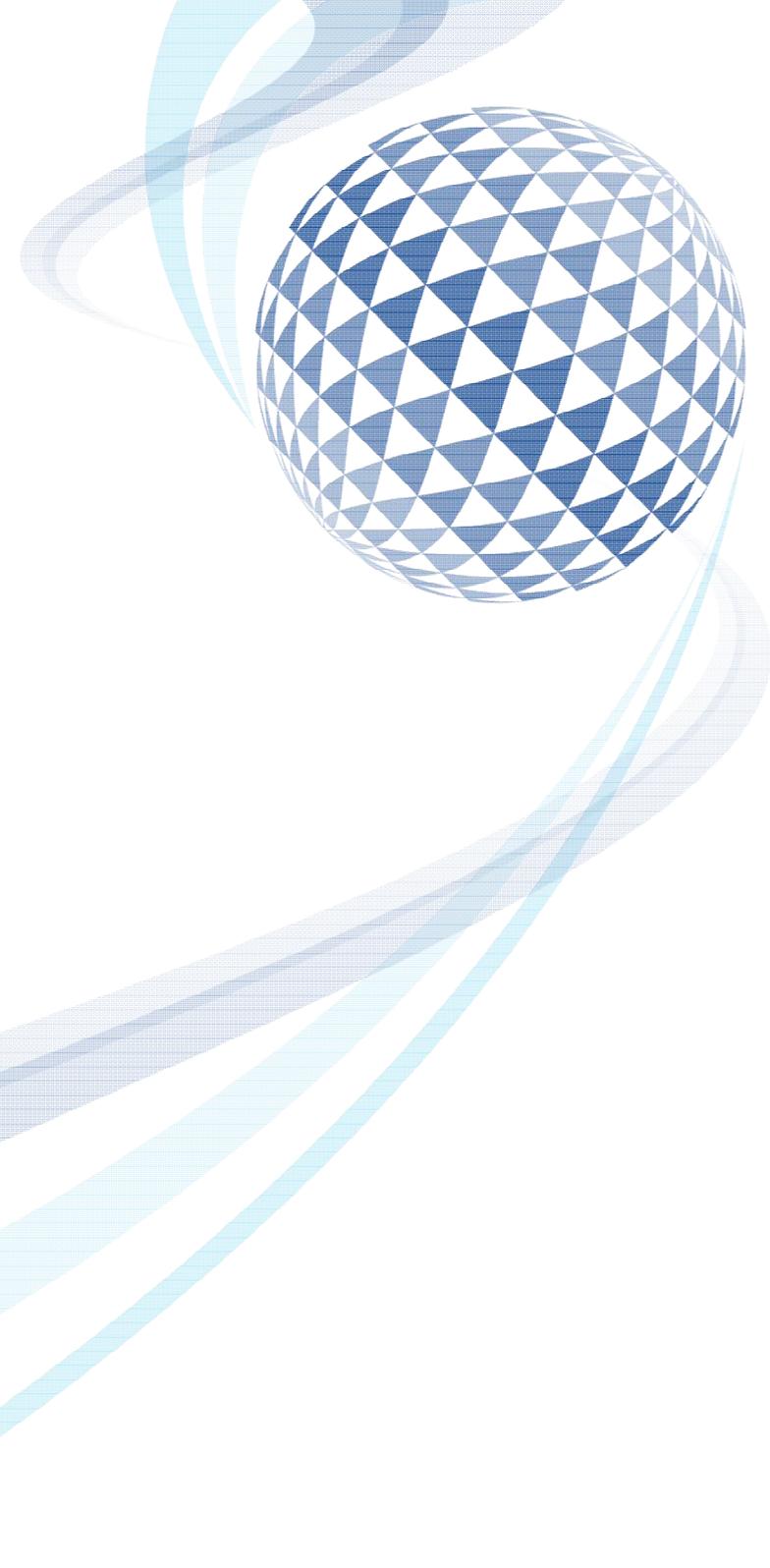
	エネルギー バランス	原材料 バランス	廃棄物 バランス
開発・設計	機器動力の低減 長寿命製品の開発	環境を考えた 材料の採用	つくりやすく リサイクルしやすい 構造の追及
製造	省エネルギー での製造	リサイクル原料取込 端材の再生	環境負荷の低減 塗料削減 有機系ガス削減
使用	ランニングエネルギー の削減	リサイクル材へ容易な転換	
廃棄		容易な分解解体	廃棄物の減容

環境対策の実際例



- ステンレスメインフレーム及び外装パネルのガルバリウム鋼板により塗装箇所を大幅に減少
- 地球温暖化を招くフロンガスは使用せず、ノンフロン硬質発泡ウレタンフォームを使用

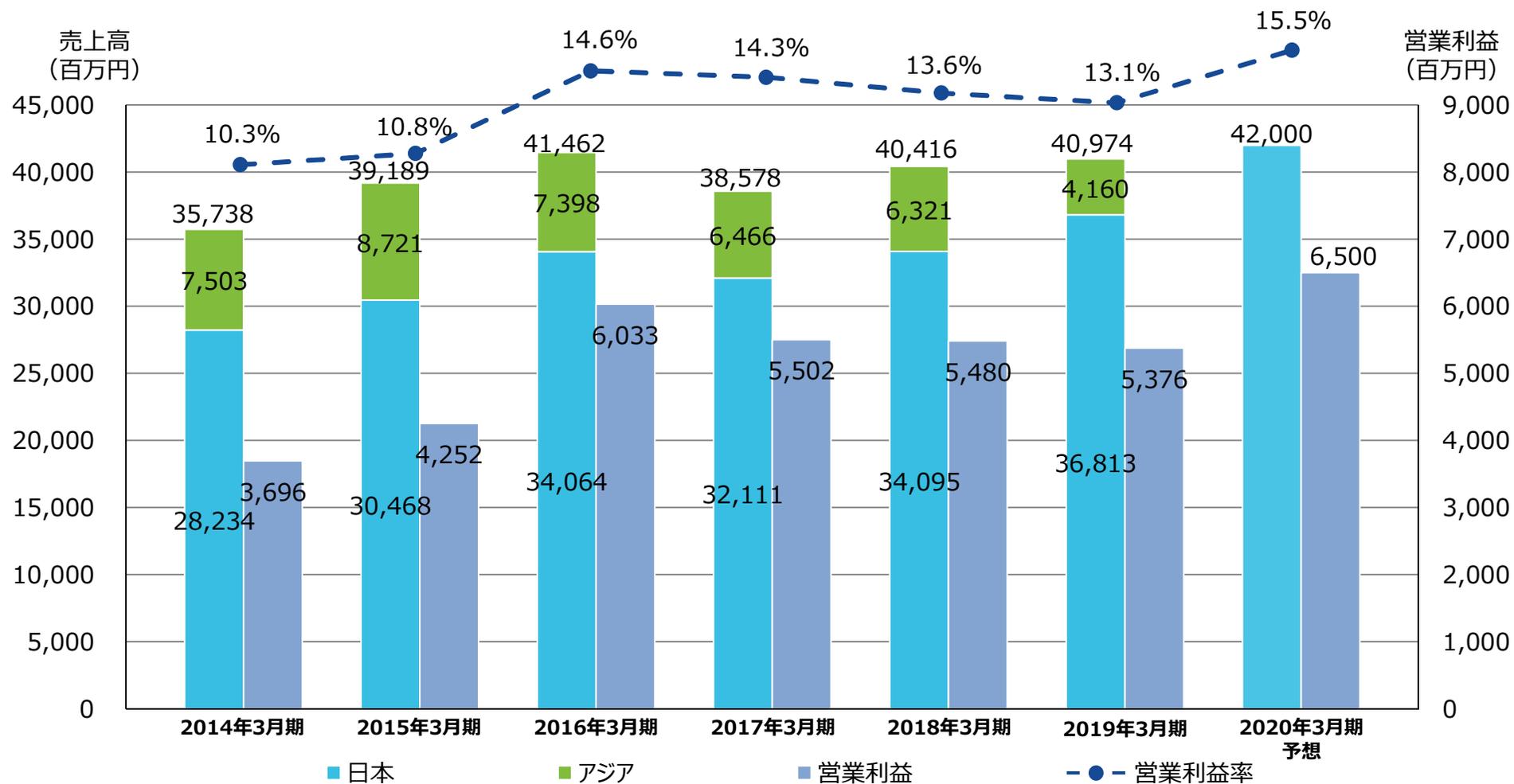
IV. 決算概要



1. 連結業績推移

- 2014年3月期より着実な国内建設市場の拡大を背景に増収・増益基調が継続
- 2020年3月期は創業以来最高益を予想

連結売上高および営業利益の推移



2. 2019年3月期決算実績

① 連結損益計算書

(単位：百万円、%)

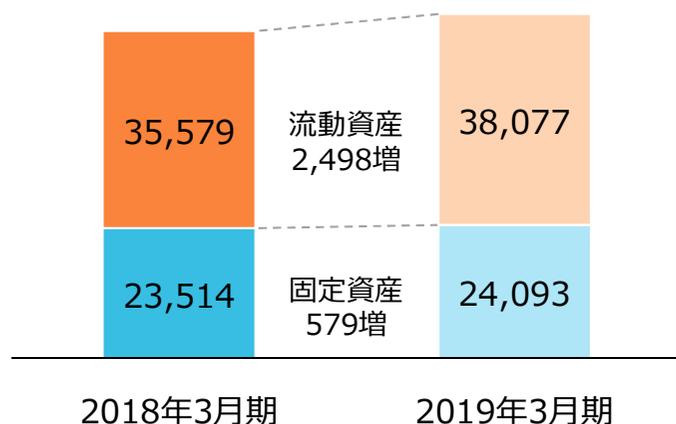
	実績					
	2018年3月期		2019年3月期			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比 増減額	増減率
売上高	40,416	100.0	40,974	100.0	558	1.4
日本	34,095	84.4	36,813	89.8	2,718	8.0
アジア	6,321	15.6	4,160	10.2	△2,161	△34.2
営業利益	5,480	13.6	5,376	13.1	△104	△1.9
経常利益	5,714	14.1	5,777	14.1	63	1.1
親会社株主に 帰属する純利益	3,891	9.6	4,155	10.1	264	6.8
1株当たり 当期純利益	149.12		159.52		10.40	

2. 2019年3月期決算実績

② 連結貸借対照表

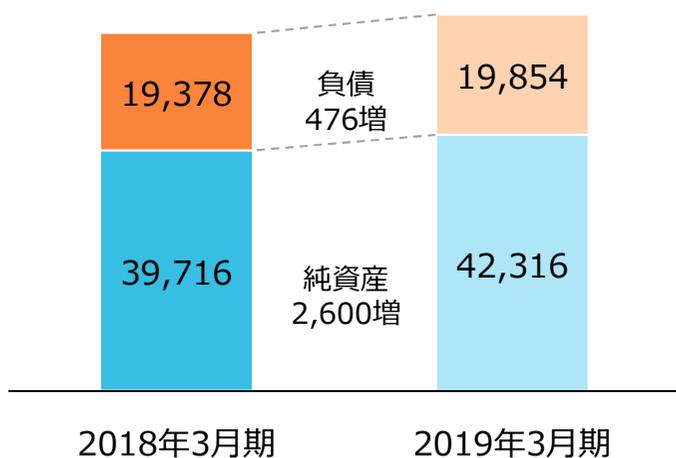
資産

(単位：百万円)



負債／純資産

(単位：百万円)



(単位：百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	増減額
流動資産	35,579	38,077	2,498
現金及び預金	13,992	15,495	1,503
受取手形及び売掛金	19,793	21,186	1,393
たな卸資産	2,287	1,997	△290
固定資産	23,514	24,093	579
有形固定資産	12,044	12,460	416
無形固定資産	1,223	1,031	△192
資産合計	59,094	62,170	3,076

負債合計	19,378	19,854	476
(有利子負債残高)	2,454	2,190	△264
純資産合計	39,716	42,316	2,600

(単位：%)

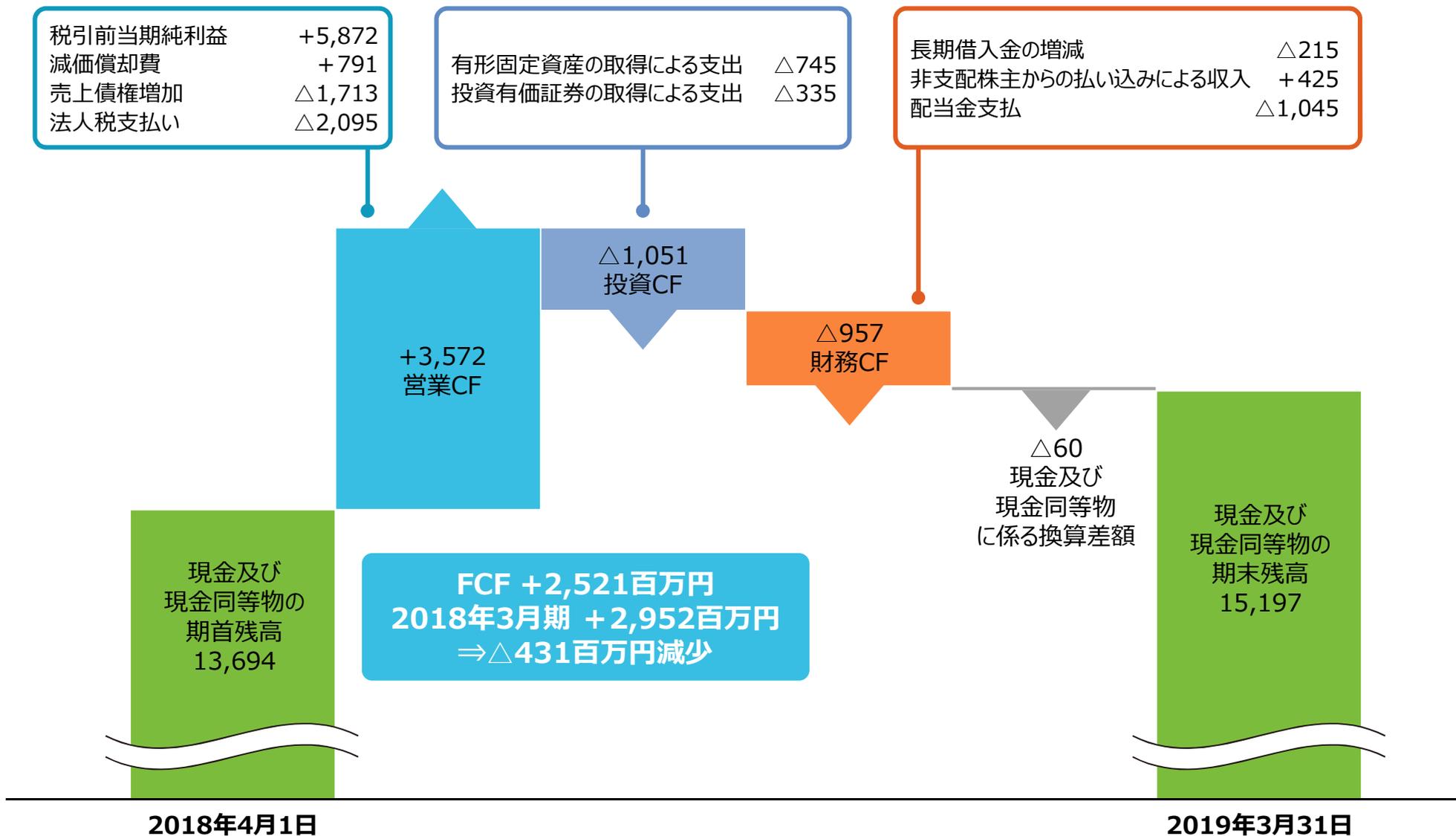
自己資本比率	62.4	63.9	1.5
---------------	------	------	-----

2. 2019年3月期決算実績

③ 連結キャッシュフロー計算書

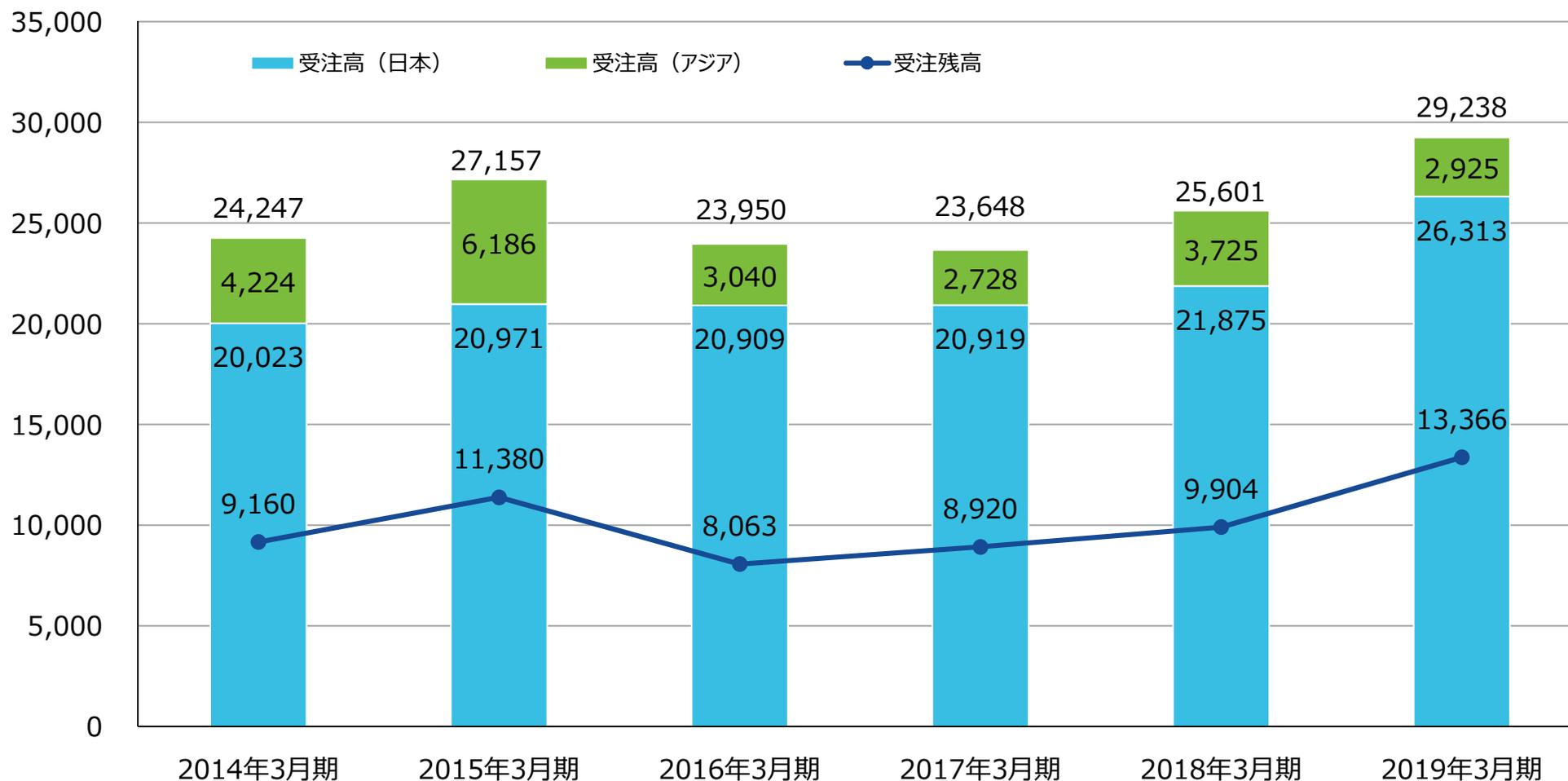
■ フリー・キャッシュフローは2018年3月期の29.5億円から25.2億円に減少（△4.3億円）

(単位：百万円)



3. 受注高・受注残高の推移

(単位：百万円)



4. 2020年3月期売上高・営業利益・経常利益・純利益（予想）

2020年 3月期 予想	連結売上高 42,000百万円 (前期比 +2.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内の安定的な更新需要と都市再開発案件の好調な受注を背景に増収 ■ 海外は構造改革進展の影響により減収
	営業利益 6,500百万円 (前期比 +20.9%)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内においては都市再開発に係る高採算案件が原価上昇を吸収し増益 ■ 海外は受注採算性の好転と製造原価削減により営業利益が改善

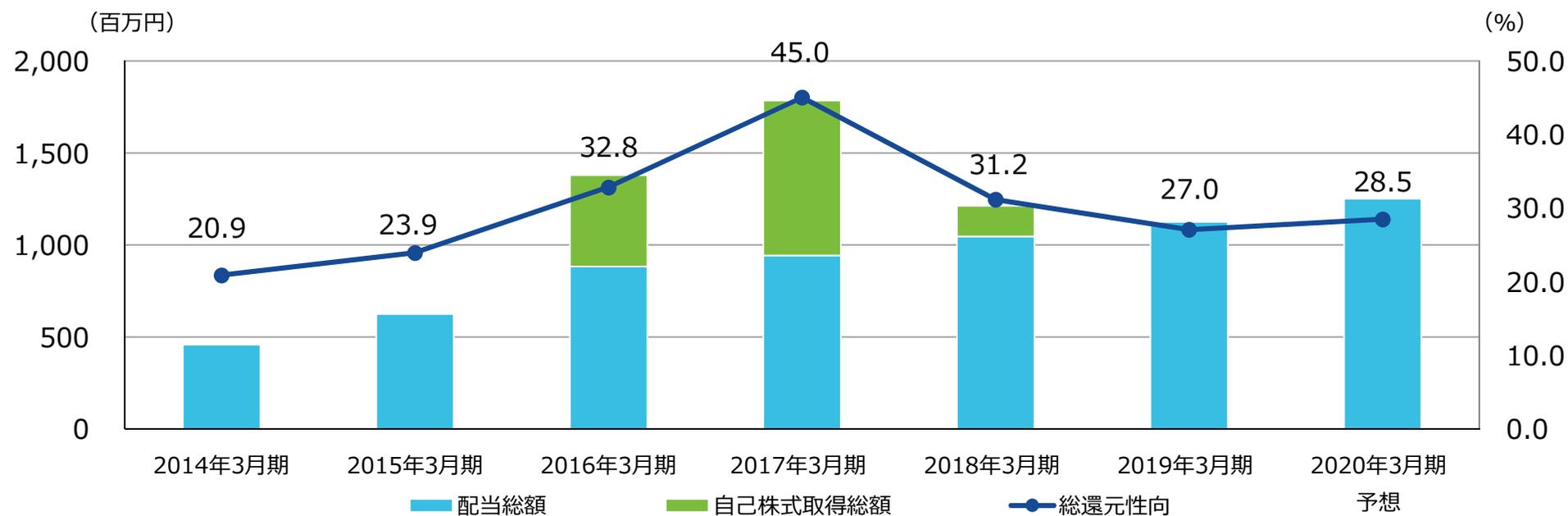
(単位：百万円、%)

	2019年3月期			2020年3月期（通期）（予想）					
	金額	構成比	増減率	2020年3月期2Q			金額	構成比	増減率
				金額	構成比	増減率			
売上高	40,974	100.0	1.4	19,000	100.0	9.4	42,000	100.0	2.5
営業利益	5,376	13.1	△1.9	2,000	10.5	36.8	6,500	15.5	20.9
経常利益	5,777	14.1	1.1	2,100	11.1	29.2	6,750	16.1	16.8
親会社に 帰属する 当期純利益	4,155	10.1	6.8	1,370	7.2	17.7	4,390	10.5	5.7

5. 株主還元

総還元性向推移

■ 業績に連動した継続的な株主還元を着実に実施。2020年3月期は一株あたり48円配当を予定



株主優待

	保有株式数	優待内容
1年未満保有	100株以上	図書カード 1,000円相当分
1年以上継続保有	100株以上1,000株未満	カタログギフト3,000円相当
	1,000株以上	カタログギフト5,000円相当

ご清聴ありがとうございます

IRに関するお問い合わせ先

新晃工業株式会社 経営企画本部 企画・関連事業部

電話 : 03-5640-4169

e-mail : yo-saito@sinko.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

証券コード : 6458 (東証 1 部)